

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機 関 名	東北大学	整理番号	Q02
プログラム名称	マルチディメンジョン物質工学リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	花輪 公雄	プログラムコーディネーター	長坂 徹也
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価においては計画を超えた取組を行っているとして高く評価したが、その評価にふさわしく着実に進展を続けていることが今回の視察でも確認できた。 ・ 学位プログラムの理念が明確に設定され、それを実現するために3種類のインターンシップをはじめとするカリキュラムが構築されている。また、初めての修了者（早期修了者1名）に対して既にQE2が実施された。本プログラムが目標とする俯瞰力の涵養という点では、学生も大きく成長している。 ・ 今年度の修了予定者7名のうち、5名は企業に就職することが既に決定している。これに続き、今後修了していく学生も、プログラムでの学びを生かして自身のキャリアを開拓していくことが期待される。 ・ 次世代アントレプレナー育成事業に東北大学が採択された（「EARTH on EDGE」）。本プログラムに参加する一部の学生もアントレプレナー教育を期待しているようであるので、本事業によるプログラムへの効果が期待される。 ・ 支援期間終了後の体制と財政支援については、大学としての将来像が示された。現在在籍している学生の教育は継続し、支援期間終了後に入学した学生は次のプログラムで教育を行っていくという方針であり、ビジョンが描かれていることは評価される。 ・ プログラムコーディネーターのエフォートの高さが当初懸念されていたが、次期のコーディネーター及びサブコーディネーターが既に決定しているとのことであり、負担の集中についての懸念は軽減された。 ・ 個々のリーディングプログラムがそれぞれ独自に企業との窓口を開拓している現状において、本プログラムでは少なくとも学内での窓口を統一することとし、将来的にはリーディングプログラム全体でも企業との窓口を一本化すべきであると考えているとのことであり、この問題意識は興味深い。 ・ 予算の削減によって学生数を減らさざるを得なくなっている現状があるが、プログラムとしてはある程度の人数の学生を育成してほしい。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の交流会である「お茶会」について教員により企画されているが、学生主導で行うようにすると、リーダーシップの涵養という意味でも学生にとって得るところが多いのではないか。 			